

アレルギー性鼻炎 (花粉症を中心に！)



伊藤耳鼻科クリニック

〒351-0034 朝霞市西原2-4-17
ジェミニビル1F

院長：伊藤菜穂子

TEL:048-486-0087
FAX:048-486-0201

くしゃみ・鼻水・鼻づまりを主症状とするアレルギー性鼻炎には、ダニ・ハウスダストなどが原因となる通年性のもものと、スギ花粉などが原因となる季節性のももの（花粉症）があります。

小児アレルギー性鼻炎の特徴など

○小児のアレルギー性鼻炎は3〜4才頃からみられる事が多くほとんどが通年性のものですが、花粉抗体陽性者（花粉症予備軍）の率も高く発症の若年化も年々増しているため小児期からの花粉回避は必要です。

○アレルギー疾患であるアトピー性皮膚炎・喘息・アレルギー性鼻炎などが関連し合い次々とあらわれることがあり、それはアレルギーマーチと呼ばれています。

○アレルギー疾患の遺伝形式ははっきりしていませんが、親の体質が似てしまう事があるのは確かです。この遺伝的要因と環境的要因（花粉暴露など）が絡まり発症に至ります。

○滲出性中耳炎・慢性副鼻腔炎の合併にも注意が必要です

アレルギー性鼻炎の診断・治療など

○自覚症状、鼻の所見からある程度の診断は可能ですが、抗体価検査（血液検査）、皮膚反応検査などにより確定診断となります。

○治療は内服薬、点鼻・点眼薬などによるものが中心となりますが、いちばん大切な事は原因回避です。

○花粉回避にはメガネ・マスク（キヤラクター付きなど）の使用、帰宅後のうがい・洗顔・鼻をかむ、家族全員が服・髪をよく払い花粉を室内に持ち込まない、フトン・洗濯物は外に干さない、窓・ドアはすぐ閉める、そして毎日の掃除機がけなどが大切です。

○最後に、お子さんを連れてくるお母様の中で妊娠・授乳中にアレルギー性鼻炎で悩んでいる方もたくさんいらっしゃいますが、治療法は妊娠中の時期によって異なります。妊娠2ヶ月は重要臓器の形成される最も大切な時期ですので原則として薬剤はひかえ温熱吸入療法などが安全です。他の時期は短期間の点鼻薬を中心とする治療も可能になります。耳鼻科医と相談して下さい。